

つながりに生きる

生徒指導主事 田村 耕一郎

双方の意見を行くこと ～正しい情報・正しい知識に基づく行動の重要性～

以前、いじめの恐れを訴えてきた保護者と次のような話をしたことがある。

保護者： うちの子がAさんから陰口を言われている。BさんとCさんが教えてくれた。Aさんを指導してもらえないですか。

田村： 情報をいただいてありがとうございます。すぐに対応します。情報をいただいたので、まず、Aさん、Bさん、Cさんから明日話を聞きます。事実関係を確認した上で、指導いたします。

保護者： いや、先生。うちの子もBさんもCさんも、Aさんが陰口を言っているって証言してるんですよ。Aさんが言っているのは間違いのないから、すぐに指導してください。

田村： いや、お母さん、事実を確認してからでないと適切な指導はできません。もし仮に、娘さんが陰口を言っているという情報を私たちが得て、きちんとした事実を確認もせず、娘さんを指導したら、お母さん怒りませんか？

保護者： それはおかしいです（怒ります）。

田村： お母さんがおっしゃっているのは、そういうことですよ。だから双方の事実確認をさせてくれと言っているんです。…



「まさか」と思われた方がたくさんいてほしいと思うが、これは実話である。私もこの時ばかりは首を傾げずにはいられなかった。まさに「自分がされて嫌なことを人にする」という状況なのではないだろうか。

学校では様々なトラブルが起こる。これだけの数の中学生が生活しているのだから、仕方ない。私たちは一つずつその解消に向けて日々奮闘している。その際、先生方には「双方の意見を聞くこと」「ゴールを定めて指導を始めること」をお願いしている。案件によっては、片方が確実に悪いと瞬時に判断できるものもあるが、それでも必ず「双方の意見を聞くこと」はお願いをしている。

最近また、有名人が生命を落とした。早速ニュース速報が流れた。私もびっくりした。そして、すぐに始まったのが「(推測による)死亡理由の詮索」だった。この日の夜の動画配信サービスは、この話題で賑わっていた。本当に指導が必要なのは、子供ではなく大人なのではないかと思わざるを得ない世間の流れに、少しがっかりした。

人は時として、自分の都合の良い方に解釈をしたり、自分の大切な人の意見が一番だと思ってそちらだけの意見を聞いたりすることがある。その気持ちは十分にわかるのだが、それは正しい方法だとは私は思わない。みんなに考えがあり、みんなに想いがある。両方の意見に耳を傾け、冷静に判断できる人こそが人間的に魅力があるのではないかと思っている。一方的に決めつけたりクレームを言ったりするのは、いささか幼稚なように感じるのは私だけなのだろうか。

久しぶりに救われました ～学校評価アンケートより～

「だいたい40人くらいの方に読んでもらえたら御の字です」と先生方にお話しし、3年ぶりに生徒指導通信を復活させました。好きなことを綴っているだけで恐縮なのですが、今回の学校評価アンケートで数多くの高評価をいただきました。「毎回楽しみに読んでいます。」「現代の問題をしっかり捉えていて感心しています。」「熱心な先生にご指導していただいて安心しています。」…こそばゆい感じがしますが、とてもうれしく思っています。ぜひ、私からもお礼を言わせていただきたい、直接お話を伺いたいと思っています。今度、参観日等でお会いした時に、ぜひお声がけください。よろしく願いいたします。

つな
ごころ
感謝の